

ウイルス性結膜炎

眼科 小林秀雄

結膜炎は患者数の多い眼科の病気の代表です。それだけに“ありふれた軽い病気”と思われがちですが、感染が流行することもあり注意が必要です。結膜とは瞼(まぶた)の裏側と、白目の表面を結びつないでいる薄い膜です。結膜は目を開いている間ずっと外界にさらされているため、感染症が起きやすい場所といえます。



■ウイルス性結膜炎とは

ウイルスは細菌よりもさらに小さな微生物です。結膜炎を起こすウイルスには、アデノウイルス、エンテロウイルスなどがあります。結膜の充血、目やに、涙目、ゴロゴロした目の痛みが主な症状です。他の人に感染させる力も強く、家族内感染や学校内の集団感染などの原因になります。夏場によく流行します。

■ウイルス性結膜炎の種類と症状

(1)流行性角結膜炎

アデノウイルス8型(ほかに19型など)という感染力の強いウイルスが原因で、一般に「はやり目」と呼ばれている結膜炎です。ウイルスに感染して1週間から10日の潜伏期を経てから発症します。ほかのウイルス性結膜炎よりも結膜の症状は強く、目やに、充血、瞼の腫れや、眼痛を伴うこともあります。最初は片目だけに発症しても、数日中にもう片目に症状が出現することもあります。通常は発症してから約1週間の間に病状のピークがあり、その後徐々に改善してきますが、炎症が強い場合は角膜の表面に小さな濁りが残り、視力低下の原因になることもあります。

(2)咽頭結膜熱

アデノウイルス3型(ほかに4型、7型など)によって起こる結膜炎です。夏場にプールの水を介して子供たちの間に流行することがあることから、俗に「プール熱」とも呼ばれます。ウイルスに感染してから発病まで5~7日の潜伏期があります。この結膜炎は、充血や目やにといった目の症状は流行性角結膜炎より軽い反面、のどの痛みや発熱などの症状を伴い、風邪のように全身がだるくなったり下痢をしたりします。発病から10日ほどで改善します。

(3)急性出血性結膜炎

エンテロウイルス70型やコクサッキーウイルスA24型など、エンテロウイルスの仲間によって起こる結膜炎です。潜伏期が1日と短いことと、鮮やかな結膜下出血を起こすのが特徴です。ほとんどの場合、両目に結膜炎が発症しますが、症状は発症から1週間程度で治ります。その出現がアポロ11号の月面着陸とほぼ同時期であったため、別名をアポロ病とも呼ばれ、かつては世界中で大流行を起こしたことがありますが、最近では大きな流行は起きていません。

■ウイルス性結膜炎の治療

ウイルス性結膜炎に対しての特効薬はありません。このため、症状がそれ以上ひどくならないように、炎症を抑えるステロイド点眼薬や、細菌の混合感染を防止するための抗生剤点眼薬を使用します。

■ウイルス性結膜炎の感染予防

ウイルス性結膜炎にかかったときに忘れてならないのは、病気を他人にうつさないよう注意することです。他人に感染させる恐れのある期間は、流行性角結膜炎や咽頭結膜熱では約1~2週間、急性出血性結膜炎では3~4日です。ウイルス性結膜炎は学校伝染病に指定されており、医師が許可するまで登校を禁止することになっています。社会人でも集団感染を防止する意味で、できるだけ仕事を休むのが望ましいといえます。ウイルスは目をこすったり、触ったりした手から感染することがほとんどです。感染を予防するには、石鹸を使ってよく手を洗うことが重要です。また、タオルは使い捨てのペーパータオルを使用し、お風呂は最後に入り、お風呂の掃除もしっかり行いましょう。

